

第1回 吹田市健都オープンイベント等企画・運営業務
委託事業者選定会議 議事要旨

1 日時

平成30年5月25日（金）10時00分～10時55分

2 場所

吹田市役所 低層棟3階 健康医療部会議室

3 出席者

北大阪健康医療都市推進室長、シティプロモーション推進室長、文化スポーツ推進室長、保健センター所長、公園みどり室長

4 案件

- (1) 選定会議の進め方について
- (2) 公募プロポーザル実施要項について
- (3) 選定に関する事項について
- (4) その他

5 議事概要

- (1) 事務局が出席者数の確認（委員5名中5名出席）を行い、要領第5条第2項に定める定足数を満たし、本会議が成立していることを確認した。
- (2) 次第及び各案件について、資料に基づき事務局から説明を行った。その後、以下の質疑応答があった。

【委員】

仕様書の「継続的な仕組みづくり」、「緊急時における対応策」とは、どのようなイメージか。

【事務局】

市民の方にとっては、自発的な健康づくりに役立ててもらえるものを、市にとっては健康につながる既存の施策との連携が深まるものをイメージしている。

緊急時の対応策は急病人の救護や、災害発生時の対応といったマニュアル等を事前に整備してもらいたいイメージ。

【委員】

委託期間は、平成31年3月までとなっている。オープンイベント自体は遅くとも12月で終わるが、1月以降はPRにつながる取組を実施する余地を残したと

いう理解で良いか。

【事務局】

それもあるが、春先にイベントを提案してもらってもいい。

【委員】

イベント等を実施してほしい中心的な時期等が既に決まっているのであれば、発注者の意図や考えを汲みとりやすいように、もう少し書き方を工夫しては。

【事務局】

仕様書には書いているが、より分かりやすい表現ができるよう検討したい。

【委員】

類似するイベントの実績について評価は事務局が行うのか。公募に当たって実際に取組実績のある事業者はどれほどの数があるか。

【事務局】

イベントの実績に関する評価は事務局が定量的に採点する。イベントの規模や内容の詳細までを細かに確認して評価することが難しい。

今まで事務局が意見交換してきた業者の中には、マラソン大会や健康づくりのイベントで実績のある事業者が一定数いたことを確認している。

【委員】

仕様書に「関係者との調整」とあるが、連絡調整会議などで摂津市や各地権者との間で事務的な調整をするだけでなく、活動に巻き込んでお互いの関係づくりが深まるような動きを事業者に理解してほしい。その意図が伝わりやすい書き方の工夫を検討してほしい。

【事務局】

契約後に揉めないためにも、意図が伝わりやすい表現にする。

【委員】

著名人を呼んでの講演会は1回だけか。複数回行うという提案はありか。

【事務局】

吹田市が指定する大学との共催で著名人を呼ぶのは予算規模の制約からも、おそらく1回だけ。ただし、複数回行うという提案は妨げない。

【委員】

提案価格に対する評価は部会委員の裁量に委ねるということでよいか。

【事務局】

事業者からの提案や経験を踏まえ、各委員が妥当性を判断して採点してもらいたいと考えている。安かろう悪かろうの提案はなくせるようにしたい。

【委員】

事業者から庁内の各部署に問い合わせが入ることはありうるか。

【事務局】

公募に関する問合せ先は事務局で統一するが、市の政策や取組を研究する事業者がいれば公募とは切り離して問合せしてくる可能性はあると思う。

【委員】

提案書の様式は、枚数の定めがなくで大丈夫か。また、現行の記載だと提案書の内容を書き漏らすことが危惧される。

【事務局】

仕様書全体の中身が反映されていれば枚数の制限は設けないという考え。確実に仕様書の中身を反映してもらうよう、文章表現の修正を検討したい。

【委員】

プレゼンテーションでの意欲という部分はどのように評価するイメージか。やる気に満ち溢れていそうであれば高評価となるのか。「意欲」の捉え方は。

【事務局】

質疑応答でのやりとりを通じて、事業者が自らの提案を分かりやすく伝え理解を求めることができているかを評価するものと考えている。「意欲」については必ずしも必要とは考えていないので、表現については分かりやすい表現等に修正することを検討したい。

【委員】

応募者のプレゼンテーションは、誰が行ってもよいのか。(応募法人の社員に限るなどの制約は設けるのか。)

【事務局】

特段の制約を設けることは想定していない。

(3) 公募プロポーザル実施要項については、委員からの意見を踏まえ、分かりやすい文章表現等に修正することとし、修正は委員長に委ねることを確認した。

(4) 案件(2)「公募プロポーザル実施要項」及び案件(3)「選定に関する事項について」は、修正事項を反映したうえで事務局案を採用することを確認した。

以上